

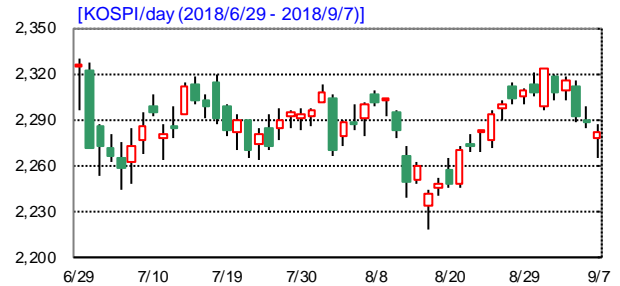


【韓国】 総合指数は 1.8%安と 3 週ぶり反落、今週も米通商問題で神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.8%安と 3 週ぶりに反落。週を通じて、米国が 2000 億米ドル分の中国製品に対する追加関税を發動すると警戒感が強まり、相場の重荷となった。米ハイテク株安を受けてサムスン電子などの主力銘柄が売られた。5 日に 8 月 27 日以来となる節目の 2300 ポイントを割り込み、7 日まで 3 日続落。8 月 22 日以来の安値で引けた。個別では、時価総額が大きいサムスン電子や半導体の SK ハイニックスが米半導体関連銘柄に追随して下落。半面、8 月の海外販売実績が前年同月比 9.5%増と好調だった現代自動車が週間で 6.4%高、起亜自動車も 6.9%高と堅調で指数の下げ幅を縮めた。今週も米中貿易摩擦の激化を警戒する慎重ムードが続くか。12 日に 8 月の失業率と 7 月のマネーサプライが発表される予定。

▼指数チャート

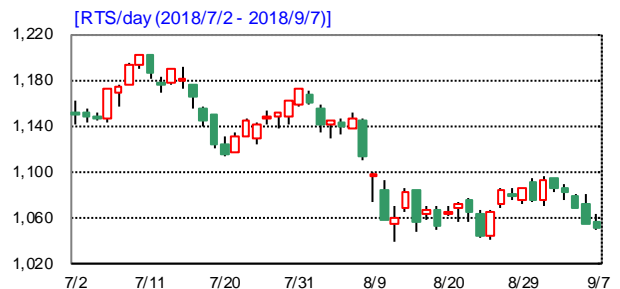


【ロシア】 RTS 指数は 3.8%安と 3 週ぶり反落、今週も資金流出懸念が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は 3.8%安と 3 週ぶりに反落。通貨安、原油安に加え、西側諸国による経済制裁への警戒感から資金流出が続いた。指数は週明け 3 日に 0.7%安と反落してスタートすると、7 日まで 5 日続落。西側諸国による対ロ追加経済制裁の可能性が意識される中、原油相場下落が嫌気された。通貨ルーブルは対ドルで 2 年半ぶりの水準まで下落し、ロシア国債も数カ月ぶりの水準まで売られるなど金融市場全般で資金流出が強まった。RTS 指数採用銘柄は空運のアエロフロート・ロシア航空が 6.0%安となったほか、金融大手のズベルバンク (3.9%安)、石油大手のルクオイル (1.6%安) などの時価総額上昇銘柄が大きく下落し、指数を押し下げた。今週も対ロ経済制裁問題や資金流出懸念が重しとなりそうだ。

▼指数チャート



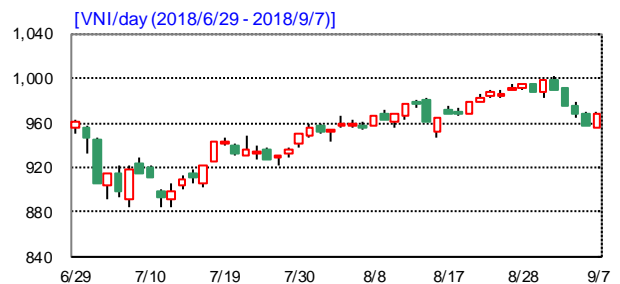
【ベトナム】 ベトナム指数は 2.1%安と 8 週ぶり反落、今週は金利先高観が上値圧迫か

追か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は 2.1%安と 8 週ぶりに反落。アルゼンチンの緊縮財政政策をきっかけに新興国リスクへの警戒感が高まったほか、米中貿易戦争の泥沼化懸念、米長期金利の上昇なども重しとなった。建国記念日で休場となった 3 日を挟み、指数は 6 日まで 4 営業日続落。週初からの 3 日間では 3.2%安となった。アルゼンチンと南アフリカの経済悪化懸念を受けて新興国リスクが意識され、インドネシア・ルピアが 20 年前のアジア通貨危機以来の水準に下落するなど東南アジア全般でリスクオフが強まった。ベトナム市場では不動産のビンググループ (6.0%安)、エネルギーのペトロベトナム・ガス (2.5%安) など時価総額上位銘柄が売られ、指数を押し下げた。今週も米金利の先高観や新興国経済の混乱が上値圧迫要因となりそうだ。

▼指数チャート

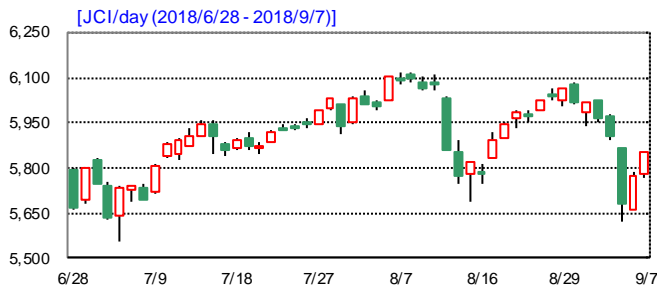


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.8%安、20年ぶりのルピア安を嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で2.8%安と3週ぶりに反落。週半ばに大幅下落したが、後半の買い戻しで下げ幅を縮めた。週初の3日は、米ドルに対するルピアがアジア通貨危機以降、約20年ぶりの安値水準に落ち込んだことが嫌気され、指数は3営業日続落。その後もルピア安が進む中、4日に前日比1.0%下落すると、5日はさらに3.8%安と終値ベースで約2カ月ぶりの安値を更新した。ただ、6日に反動で1.6%上昇すると、7日も1.3%高と続伸して引けた。今週は為替の動向が引き続き焦点になるほか、10日発表の7月の小売売上高に対する市場の反応も注目されそうだ。11日はイスラム暦新年の祝日で休場。

▼指数チャート

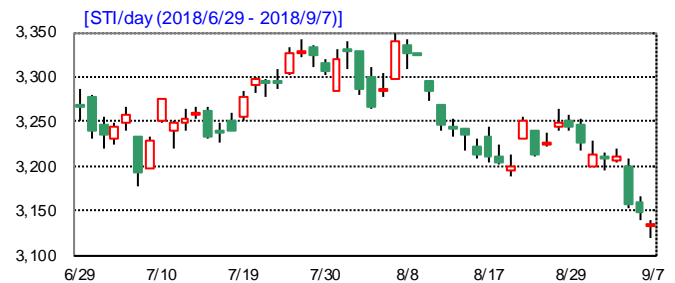


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 2.5%安、米中貿易摩擦激化への懸念が足かせ

スレーツタイムズ指数は週間で2.5%安と3週ぶりに反落。週半ばからの下落が痛手となった。週初の3日は金融株と通信株が売られ4営業日続落してスタート。4日は前日の取引終了後に発表された8月の製造業PMIが52.6と前月を0.3ポイント上回り、5カ月ぶりに上昇に転じたことが好感されて反発した。一方、5日は米国による中国への追加制裁に関する意見公募の終了を翌日に控え、貿易摩擦激化への懸念の高まりが嫌気され、指数は終値で前日比1.7%下落。その後も週末までじりじりと下値を広げ、7日には17年4月以来の安値を更新して引けた。今週は12日に7月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

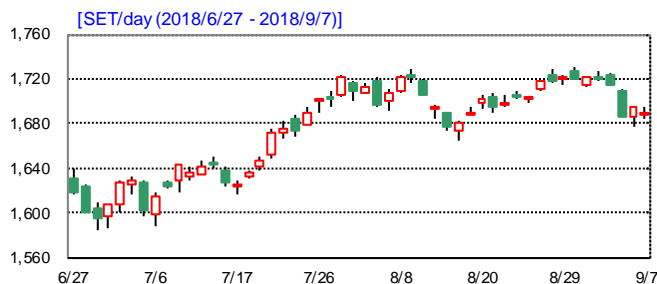


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.9%安、今週は 1700 ポイント回復に期待

SET 指数は週間で1.9%安と3週ぶりに反落。1週間を通じて軟調な値動きだった。週初の3日は通信、金融株の下落をエネルギーと消費関連株で補い、前週末からほぼ横ばい。4日も8月の消費者信頼感指数が13年4月以来の最高値を更新したことで小幅な下落にとどまったが、5日は買い材料に乏しい中、ドバイ原油価格の下落などが響き、終値ベースで前日比1.6%安と2週間ぶりに1700ポイントを割り込んだ。その後は6日に4営業日ぶりに反発したが、7日には再び反落して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、米中貿易摩擦の動向や14日に発表が集中する中国の経済指標の内容が焦点。

▼指数チャート

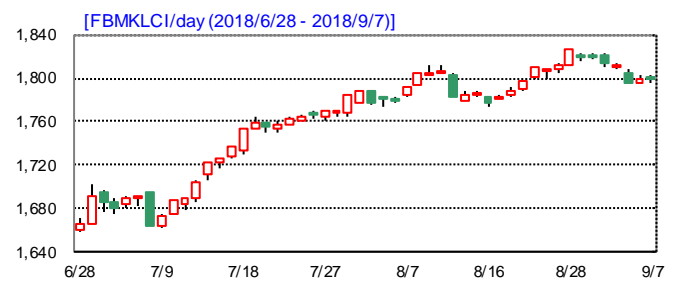


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.1%安、週末に 1800 ポイント目前まで回復

クアラルンプール総合指数は週間で1.1%安と3週ぶりに反落。週半ばまでの続落が響いた。週初の3日は中国の8月の財新製造業PMIが17年6月以来の最低値を更新したことなどが嫌気されて下落。5日は7月の輸出が前年同月比9.4%増と市場予想から上振れしたものの、米ドル高・リンギ安が嫌気され、終値で前日比1.0%安と節目の1800ポイントを下回った。ただ、週後半には反動で買い戻され、6日に6営業日ぶりに反発すると、7日も小幅に続伸して連休前の取引を終えた。今週は13日に7月の小売売上高が発表される予定。10日は国王誕生日の振替休日、11日はイスラム暦新年の祝日で休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。